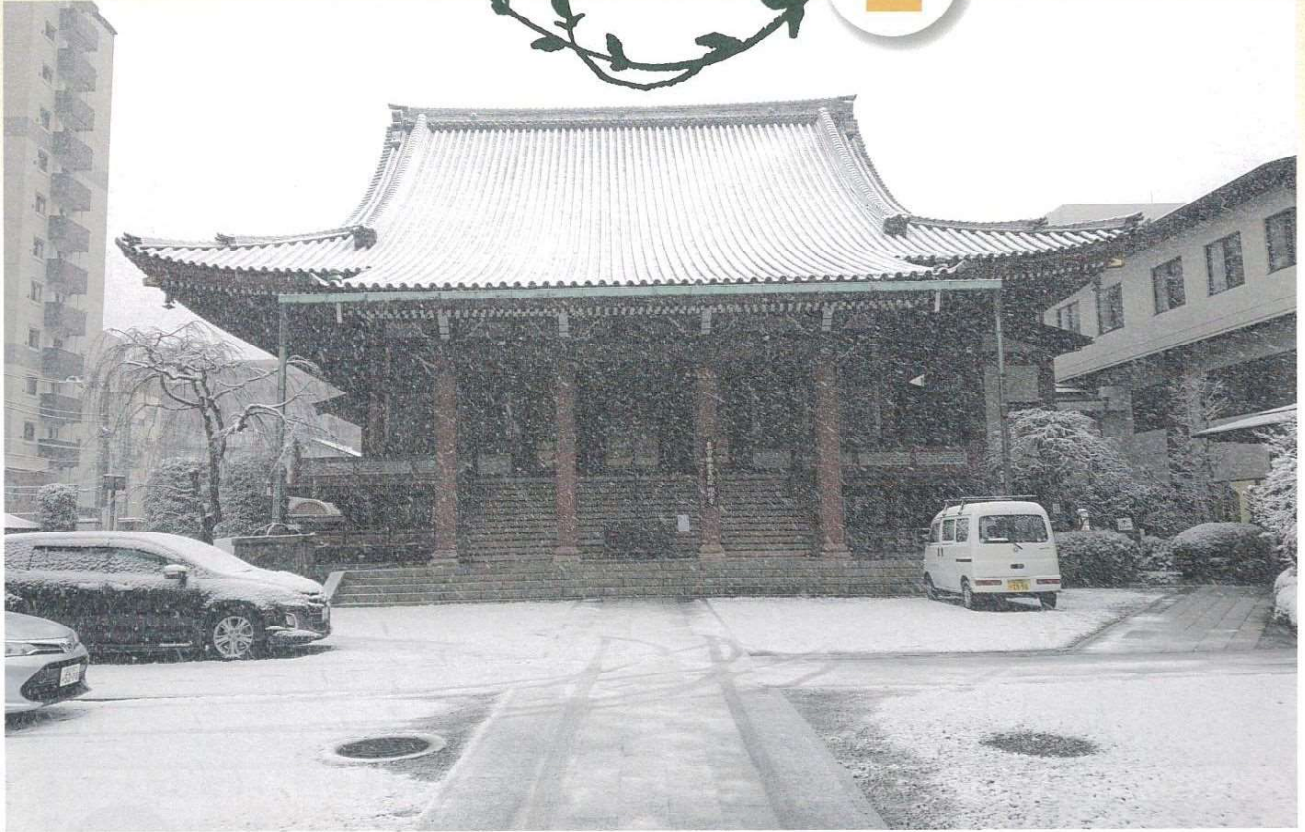


〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19  
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺  
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796  
発行人 山崎 哲  
編集長 仲井 真裕  
印刷 大進ラベル印刷(株) 03-3787-3621



大悲に生きる人とあう  
願いに生きる人となる



雪の西徳寺1月6日

## 今月の予定

### 2月

- |        |       |                            |
|--------|-------|----------------------------|
| 2日(水)  | 午後7時半 | 燈虹塾セミナー                    |
| 6日(日)  | 午後2時  | 城東ブロック会間法会                 |
| 10日(木) | 午後3時  | 総代会                        |
| 12日(土) | 午後5時半 | 同行会「宗祖親鸞聖人」に聞く<br>法話:仲井 真裕 |
| 13日(日) | 午後2時  | 城南ブロック会間法会                 |
| 16日(水) | 午後1時半 | 婦人会間法会                     |
| 19日(土) | 午後1時半 | 定例間法会                      |
| 24日(木) | 午後2時  | 評議員会定例役員会                  |

### 3月

- |       |      |            |
|-------|------|------------|
| 6日(日) | 午後2時 | 城北ブロック会間法会 |
|-------|------|------------|
- ※コロナ禍でありますので、予定は変更することがあります。  
詳しくは寺務所までお問合せください。

## 顧問の一言

### 布施

釈尊の教えを説いて回る修行僧に、貧者の一灯として差し出した古着の端布。それを縫い合わせ身にまとう布が、法衣となった。修行僧に差し出すお礼が布であったことから布施と言われるようになった。教えに料金はないのでお経料やお教料とは申しません。





## 2月の山門の言葉

### はからずも 別れと出遇いは 同居する

祖父が亡くなって今年で四十年目を迎える。幼かった私には当時の記憶が殆ど無く、祖父がどんな人柄であったのかもあまり覚えていない。

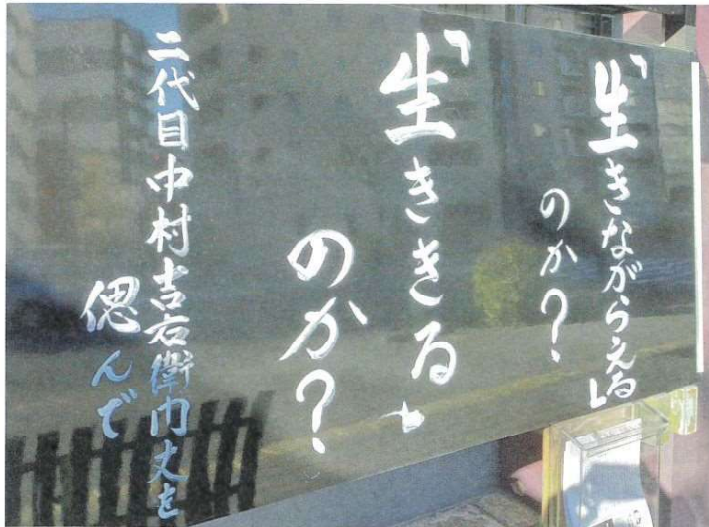
この話になると母は必ずといっていいほど「あんた、よう面倒見てもらったのに覚えてへんのか」と、あきれた顔で私に言っていた。

そんな祖父を「今ではよく知っている」というと、おかしな言い方に聞こえるかもしれないが、法事や親戚が集まる機会に、祖父は僧侶であり、絵描きであり、お百姓でもあったということを教えてもらったからだ。数十年の時を経て、少しずつ祖父と出遇い直しているように感じる。

もしかすると私たちは、身近な親であっても、自分の知る限りの父や母としか出会っていないのかもしれない。離れて暮らすことで感じる思いや、別れを通し初めて知らされる一面であったり、身近な人であっても、本当にその人と出遇うということは、無情にも自分の目の前にいなくなった時であるように感ずる。

一見矛盾するような「別れ」と「出遇い」によって、人と人が織りなしてきた歴史は、先立たれた方々を通し、今私たちが歩む道となっているのではないだろうか。

(大橋 伊知郎 記)



一月に掲げた山門の言葉を皆さんはどう聞いたのか、お尋ねしました。



みんなは  
こう聞いた!!



「100年時代と言われる時代、生きながらえてどこへ行くのか、どうなりたいのか」という問いに、オミクロン感染の中・生きるとはどういうことなのか仏道にたずねたい。(84歳・老僧)



今日も仕事を終えて帰宅しお風呂上りにビールを飲む。当たり前の1日が終わった。4年前に始めたゴルフが楽しくて、昨年少し上達した。当たり前のように年月が過ぎていく。気が付けばもうすぐ50歳。「生きながらえる」、「生ききる」どっちかなあ? (40代男性・会社員)

## 修正会報告

1月1日午前7時より修正会をお勤めいたしました。昨年はコロナの影響で内勤めとなりましたが、今年は30名ほどの方が参詣され共に新年を迎えさせていただきました。

今年は関東大震災から丸99年(100回忌)の年にあたります。当寺も本堂倒壊という甚大な被害を受けました。この節目に西徳寺で特別な法要を勤め、あらためて多くの支えによって私たちの今があることを確認したいと住職から年頭の挨拶がありました。

修正会の後、会館2階に席を移し新年会となりました。2年ぶりの新年会を皆さんと共に喜ばせていただきました。今年も親鸞聖人のみ教えを軸として、職員一同気持ち新たに歩んで参りたいと思います。

(蓮井 邦宗 記)



## 「TOKYO 散歩会」報告

1月10日(月)成人の日。元青年会会員の並木良繁さんが発起人となり、【TOKYO散歩会】が発足しました。

第1回は「レインボーブリッジを歩いて渡ろう」という趣旨のもと、浅草駅を出発し、築地場外市場にて朝食。その後ゆっくり歩いてレインボーブリッジを渡りました。お台場で昼食をとり、ゆりかもめに乗り帰路に就きました。

今後も祝日を中心に、不定期に開催する予定です。もし散歩してみたい場所があれば、一緒に歩きましょう。

(仲井 真裕 記)



浅草駅出発



歩いてレインボーブリッジを渡りました

## 燈虹塾 ハイブリッドセミナー「江戸吉原の食文化」報告

昨年3月より定期的にご利用しております当セミナー。新年第1回は「桜なべ 中江」四代目 中江白志様をお招きし、「江戸吉原の食文化」と題して開催されました。

江戸時代は「四つ足の動物は食べてはいけない」という風習があったそうで、牛肉や豚肉を食べることは禁止されていました。しかしながら、薬の役割を果たすことから「薬食い」と称して食べられていたそうです。その模様を浮世絵を通して教えていただきました。

会場とオンラインの併用ということもあり、アメリカからご参加くださった方もいらっしゃいました。今後も様々な角度から江戸文化を学んで参りたいと思います。コロナ禍を鑑みて今後はオンラインのみの開催になりそうですが、皆様のご参加をお待ちしています。

(高橋 淳 記)



今回ご講師の中江白志様



桜なべ 中江 創業当時

## 神楽師(獅子舞)のご紹介

江戸伝統文化推進「燈虹塾」発足以来、多くの芸能の方々にご縁を頂きました。  
吉福社中(吉原の狐舞ひ/西の市の鷺舞)との出会いもそのひとつです。

この度、一層芸に専念し磨きを掛け成長して頂きたいという願いから、吉福社中の神楽師(獅子舞)である「吉福羽矢太郎」さんを西徳寺に居住して頂くこととなりました。

神楽の道に邁進して頂きながら「燈虹塾」の運営のお手伝いをしていただいております。

皆様にも舞をいづれご披露させていただきますので宜しくお願い致します。

住職 山崎 哲



## 千束幼稚園「年忘れの会」たき火

昨年末、わが家の末っ子が通う幼稚園のPTA主催で、2回目の「年忘れの会」を開催しました。

今年も子ども達は本物のたき火に大興奮!みんなでたき火を囲んで歌ったり踊ったり。冬の花火を楽しんだ後は、熱々の焼き芋を味わいました。

炎に照らされ輝いている子ども達の笑顔を思い出すと、コロナ禍でも楽しい体験をさせてあげることができて、本当によかったなと思います。

わが家は今年で卒園ですが、せっかくのご縁ですので、ぜひまた幼稚園のみんなで遊びに来て頂ければありがたいです。

千束幼稚園PTA会長 山崎 晴美(西徳寺坊守)



## いのちに還る 百年大芸能祭 ～関東大震災百回忌から百周年～

今年の9月1日は関東大震災百回忌(99年)、来年は百周年になります。

多くの人々が被災し、西徳寺も甚大な被害を受けました。この節目の年を「いのち」に立ちかえる機縁にしたいと思います。

「いのち」とはなんのでしょうか?「生きる」とはどういうことでしょうか?この百年も、多くの天災や人災がありました。しかし人々の苦しみや叫びが受け止めきれず、また放置され、風化が繰り返されているように感じます。改めて、この百年の歩みを顧みることを通して、新たなる未来を創造する場を拓きたいと思います。

そこで一年を通して5回、百年追弔法要を勤修し共に歌い共に祈る芸能奉納祭を営みたいと思います。皆様とご一緒に「いのち」を考える一年にして行きたいと願っております。

詳細につきましては改めてご案内致します。

光照山 西徳寺

### 芸能祭予定日

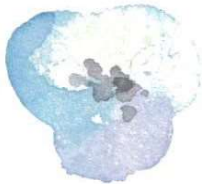
令和4年9月3日(土)

令和4年12月17日(土)

令和5年3月11日(土)

令和5年6月3日(土)

令和5年9月3日(日)





## 坊さんのツブヤッター

@テッシン



入寺した年の酉の市。近所のお店のお手伝いでの出会い。奥でジュースを飲みながら待つ、二人の息子さんに声を掛けた。

私「お父さん(18代勘三郎丈)はどなたと話してるの?」

勘太郎丈(現:勘九郎丈)「カウンターに居合わせた知らないおじさんです」

私「もう遅いけど帰らないの?」

七之助丈「父が帰るまで帰れません」

熱く語り合う姿から想像付かない、まさかの相手が初対面。

そして親子といえども師弟関係を強く感じた。

未だに愛される由縁のひとつを垣間見た20年前の出来事。

#今の私と同じ年? #まだ黒髪の頃 #人相悪くてスイマセン

#宝物の写真 #哲学を感じる #真剣に語る眼差し



## えこお志お礼

大阪府 光明寺 様

滋賀県 藤濱 晃彰 様

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。  
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。



## 内愚外賢

～賢者の信を聞きて、愚禿が心を顕す～

「よそ見をせず、前を向きなさい!」娘によく言う言葉です。自転車に乗る時や、食事の時など、よく口にしていきます。

いろいろな意味で雑音が多い今の時代、よそ見のはずが、かえって脇道が主になることも多いのではないのでしょうか。

「前を向く」とは「真まことであれ」という呼びかけにもなるように思います。私にとって真とは何か、それも念仏の道への手がかりになるのでしょうか。

引っ越しをしたばかりのお正月、風呂上りにテレビを観ている娘の髪の毛をドライヤーで乾かしながら、「無む慚ざん無む愧きのこの身にて まことのころはなけれども 弥陀みだの回向えこうの御名みななれば 功德じっぼうは十方にみちたまふ」という親鸞聖人の和讃が頭に浮かびました。(仲井 真裕 記)

えこおに対するご意見・ご感想、お待ちしております。

 [saitokuji@ce.wakwak.com](mailto:saitokuji@ce.wakwak.com)

 <http://saitokuji.tobihiro.jp/>



ホームページ

ゆうちょ銀行お振り込み口座  
00120-0-80670 名義 西徳寺



Facebook